

論 說

造船工業の技術的改善

山 縣 昌 夫

日本經濟自立の基礎條件として、海運の再建が絶対に必要であることは改めて説明するまでもない。その船腹量については終戦直後から各方面において慎重に研究され、筆者も經濟學部の脇村、法學部の石井（照）、京大經濟學部の佐波および九大法文學部の高橋（正）の4教授とともに、相當強力なスタッフをもつてこの問題をあらゆる角度から検討して400萬總トンの結論を得た。これは國內におけるよりアメリカにおいてははるかに強い反響があり、ジョンストン報告もこの數字を載せ、また最近の外電は、アメリカの對日問題審議會が日本海運に少くとも400萬總トンの船腹を保有させるべきであるとアチソン國務長官に進言した旨を傳えている。ソビエツトおよびイギリスはもちろん、アメリカ國內においても根強い異論があるので、日本海運の前途に對し手放しの樂觀は許されないが、海洋國家たる日本の經濟的獨立のために、講和會議において相當規模の船腹の保有が認めらるべきは明かである。

ある國の海運の規模は必ずしもその國の造船の規模を規定するものではなく、海運國家が自動的に造船國家になるわけではない。すなわち、船會社の採算いかんによつては、國外への造船發注も、外國船の大量購入もならん不思議はない。例えばノルウェーにおいて昨年1月1日から10月末日までの10ヶ月間に増加した船腹の構成はつぎのようになつており、國內新造船は僅に8%にすぎない。

	隻 數	總 ト ン 數	同100分率
國內新造船	40	44,449	8
國外新造船	69	397,152	76
購入外國船	64	83,895	16
合 計	173	525,496	100

すなわち、ノルウェーは現在500萬總トンの船腹を保有する海運國家ではあるが、國內造船は微々として振わず、船腹の擴充はそのほとんどすべてを國外に依存していることがわかる。

このように造船業は決してその國の海運業の隷屬産業ではなく、完全な獨立産業とみるべきものである。殊に敗戦日本の造船業は戦前の軍需工業的性格から蟬脱して、純經濟的性格をもつて再出發したのであるから、「よい船を安く造る」こと以外に生きる途は全くない。

戦前において世界の最高水準にまでは到達したわが造船技術も、第2次大戦により現在は一流造船國家のものに比べて相當の遜色が認められることは、具體的事例をあげるまでもなく蔽うことのできない事實である。しかも國際價格を上廻る鋼材と過多の工數をもつてしては「悪い船を高く造る」に轉落してしまつたといえる。このようなわけで講和成立後の完全な國際的自由經濟における日本造船には寒心したえないものがあり、ノルウェーの二の舞が豫想されなくてもない。

造船工業的きわめて大規模な綜合工業であるから、その飛躍的な技術向上は造船技術者だけの努力では達成されず、工業各分野にわたる技術改善の成果に俟つことが甚だ多い。この意味において、昨年發足したわが生産技術研究所と本年開設された運輸技術研究所（行政官廳に直屬する唯一の綜合技術研究機關）との今後における研究活動に絶大の期待を囑している。（25・4・28）

第 2 卷

7 月 號

目 次

第 7 號

口 繪

雷と送電線.....藤高周平... 1  
 夏と建築.....星野昌一... 3  
 ヨ ッ ト.....安藤良夫... 4

論 說

造船工業の技術的改善.....山縣昌夫... 5

總合成果

雷と送電線.....藤高周平... 6

研 究

氣候區と防暑対策.....渡邊要...12  
 ヨットの帆の風洞實驗.....元良誠三...18

調 査

新しい鑄造法.....千々岩健兒...23

隨 筆

隨 想.....後藤以紀...11

實驗ノート

振動測定における振動數變.....西村源六郎...28  
 化法の應用とその利點.....古川 浩

技術メモ

真空の單位.....熊變寛夫...29

講 座

微分解析機-2-.....渡邊勝...30  
 三井田純一

技術史ノート

指金と STEEL SQUARE .....關野 克...34

速 報

35 ポンプの作用に關する一般論と  
 ポンプの系列に關する考察...宮津 純...22  
 36 水槌ポンプの特性.....石原智男...27  
 37 スラッグの色調.....松下幸雄...29

生研 = ユース・編集後記